

ようこそ私立幼稚園へ

神奈川県私立幼稚園連合会で発行している会報「神私幼」父母の会版を加盟園保護者の皆様にお届けします。

Withコロナとなった新時代で考え直すべき
幼児教育の新たな課題とは

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会

会長 寺尾 康子



神奈川県私立幼稚園連合会の皆様、日頃より幼児教育の発展・支援にご尽力いただきまして誠にありがとうございます。本年度、父母の会連合会の会長を務めさせていただきます川崎市みゆき幼稚園の寺尾康子と申します。

これまで父母の会の会長・副会長というのは、お話が上手な方などが歴代なられていたと伺いました。私もお話が上手な方が絶対説得力があつていいと思います。でも今回もご縁が重なり何も取柄のない私が2年連続で常任委員に参加できることを大変うれしく思います。その反面、責任の重大さに身が引き締まる思いでございます。

昨年度は、この活動をあまり認識されていない保護者が多いことを知りました。そこで研修大会・PTA総会・青少年社会環境健全化推進会議等に参加させていただいた貴重な経験を活かし、また私のような口下手で平凡な主婦の方が意見しやすいことを信じて、より多くの父母の皆様が参加しやすい環境づくりを目指して幼児教育の重要性を伝えていきたいと思っております。

そして今一度強くお願いしたいことはセミナーへの参加です。With コロナとなった新時代での子育ての理解をより深めていただきたく、できるだけ多くのセミナーにご参加をお願いしていこうと思います。また我々も興味の沸くセミナーが開催できるよう考えていきます。

今年もコロナと一緒に生活しなくてはなりません、感染者が減少傾向にある今でも黙食を徹底されている幼稚園は多いのではないのでしょうか。可愛いわが子に先生やお友達と楽しく会話しながらご飯を食べてほしいです。運動会の応援は拍手ではなく大きな声で精一杯お友達を応援してほしいです。子どもたちの貴重な時間をこれ以上奪わないでほしいです。早くマスク着用義務がなくなりますように。制限がなくなりますように。そのために私たち大人は何をすべきか、各所の意識が高まるような活動をしていきたいと考えます。皆さまも一緒に考えていただけたら幸いです。たくさんのご意見お待ちしております。

年々変わる子育て環境の中、コロナもまだ油断できない状況ですが、県連や各幼稚園の方々も保護者の皆様も子どもたちの健やかな成長を願う気持ちは皆一緒だと思いますので、その大切なお気持ちに寄り添い、多様なご意見を中和させて今日よりもより良い環境になりますよう精一杯頑張りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

世界的な変革の大波が

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

会長 木元 茂



令和4年度に入り、新型コロナウイルスによる幼稚園の諸活動への影響は減少してきているように感じますが、周期的に感染症の山と谷が入れ替わり、なかなかすぐには以前のように戻らない状況にジレンマを感じます。今年の年長さんは年少入園時から新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまで各園が歴史的に継続してきた様々な行事が経験できず残念に感じている方もいらっしゃるでしょう。一方で、多くの園がこのような状況下でも工夫をして、子どもたちの成長に資する活動を模索してくれたのではないのでしょうか。

さて、この間全国的にも出生数が著しく減少して、2～3年後には幼稚園への入園者数も相当減少するとの予想もあります。しかし、ここは悲観的にならずに、世界的に見ても貧弱な我が国の教員配置基準等を見直し、ゆとりのある中で保育活動ができるように行政に働きかけていくまたとないチャンスと考えることもできます。園児が減ったのだから、その分先生も減らしましょうではなく、手厚いサポートの中で子どもたちを見守って欲しいという意識は、保護者の皆様にもご賛同いただけるのではないのでしょうか。身近な基礎自治体と協力して、その町に住む子どもたちにとって必要な環境を作っていくことが大切です。

今年勃発したウクライナでの戦争は、私たちの日常生活にも影響を与えています。ウクライナからの避難民を30万人も受入れたウクライナの西隣のモルドバ共和国ナタリア・ガブリリツァ首相は、このように言っています。

「私たちは、生まれる家族を選ぶことはできないし、生まれてくる国も選ばれません。でも、自分の周りに対してポジティブな影響を与えられるような人生を選ぶことはできます。どこに生まれようとも自分の可能性を発揮できるような世界を目指すことが大切です」

「今、私たち全員が自分たちの行動、態度、ふるまいが、自分自身だけでなく社会全体、世界全体に与える影響を認識する時だと思っております」

これまでは、日本という国の中で穏やかな暮らしを送ることが多くの皆さんの望みだったと思います。しかし、今の幼児が大人になって活躍する20～30年後には、もっとグローバルな価値観の中で生きていくことになるでしょう。そのために必要な幼児教育のあるべき姿を、私たち教職員と保護者の皆さんとがこれからも協力して追い求めていきたいと思っております。

こどもの心に響くことば掛け

ことのは語り 木村 まさ子 氏

令和4年 11月15日(火) 9:30~ 受付/10:00~ 開演
神奈川県立音楽堂



落ち葉も舞い散る季節となって参りました。今年度はYouTubeによるアーカイブ配信に加え、実に3年ぶりに対面で大大会を開催することができました。当日はあいにくの雨もようでしたが、会場となった県立音楽堂には、県内全域から大変多くの皆様にお集まりいただきました。

開会式では、はじめに父母の会連合会・寺尾康子会長、神奈川県私立幼稚園連合会・木元茂会長より挨拶があり、続いてご来賓の方々を代表して、神奈川県知事代理副知事・首藤健治様、神奈川県議会議長・しきだ博昭様、神奈川県私立学校審議会会長・牧島功様の3名の方に心温まるご挨拶を頂き、私たちの子育てにはたくさんの方々の支援があるのだということを改めて感じました。

その後の講演会では、ことのは語りとして、講演で全国を回り、朗読会にも力を注いでおられる木村まさ子先生にお話を頂きました。とても素敵な笑顔で穏やかな語り口調の木村先生のお話は聞いていてとても心地よく、自然に笑顔がこぼれ、時に涙を流しながら皆様熱心に耳を傾けておられました。

今回のテーマを聞いたときに、木村先生はいつもご自身が大切にしていることが繋がっている！というふうに確信し、話をしようと考えたそうです。その大切なこととは…『自分のことをいかに慈しみ、愛しているか』つまり自己肯定感や自尊心が私たち親の中に構築されているか、ということだそうです。

人は周りにいる他人と常に『比較』して生きています。その比較をしているうちに「わたしなんか…」「どうせ…」とだんだんと『けなし癖』がついてきてしまいます。我が子に対しても無意識のうちに周りの子どもと比べて、「他の子はできているのに、あなたはなんでできないの」などの言葉をかけてきてしまっているのではないのでしょうか。もちろん私たち親もさらにその親から同じような言葉をかけられていたかもしれません。そのうちに『けなし癖』のオプラートが何層にも重なり、誰もが持っているその人らしさ、『本質』を隠してきてしまっているというのです。

では、その分厚くなったオプラートを外し、自分の本当の感情や本質を表に出すにはどうすればいいのでしょうか。それは、「自分を褒める・きちんと労う」ことだそうです。私たちの身体は細胞でできています。その細胞ひとつひとつには核や意識があり、その細胞の核や意識が一番言うことを聞くのは『自分の声で発した言葉=自己命令』なのだそうです。なので、自分の

声を発して、きちんと自分を褒めることがとても大切です。また、現在は量子力学の発展により目に見えない『言葉』も数値として表すことができるようになりました。波動計という機械で言葉のもつ『波動数』を知ることができます。『褒め言葉』は総じて波動数が高く、逆に不平や不満、愚痴や泣き言などは波動数がとても低いようです。波動数の高い言葉『褒める言葉、感謝の言葉』を自分の声で『自己命令』していくことで、『本質』の輝きを取り戻し、満たされていくようになります。言い換えると『自分を認める』ということです。

『自分を認める』ことができていない人からのことばは、特に小さい子どもの心には響きません。自分の心がしっかりと満たされて、優しい気持ちであるふれている人のことばは必然的に相手にしっかりと受け止められ、伝わるそうです。子どもというのは大人の顔を見抜きます。こんなエピソードをお話くださいました。ある保育園の先生が、生活の中では、大変な悩みを抱えていた中、園の中では笑顔で子どもとしっかりと向き合おうと頑張っていたそうです。その先生がある園児を笑顔で褒めた時、その園児に「無理すんなよ」と言葉を返されたというのです。その園児は先生が満たされていないことを見透かして、褒め言葉を言葉通り受け止めなかったのです。

自分をたくさん褒めること、認めること、信頼することは自分の自尊心や自己肯定感を育むことに繋がります。それはさらにこの地球上に『私自身に代わる存在はいないかけがえのない大切な存在である』と感じることにもなります。そのことを自覚している満たされた人からかけられた言葉は小さな子どもにも素直にしっかりと届くのです。

そのために、まずは自分自身をしっかりと知り、褒め、慈しむということ、私が今あるのは私の親やその親またその親…と何代にも渡り、ご先祖様たちが必死に生き抜いて繋げてくれたおかげであると感謝を忘れず、今を懸命に生きる大切さを改めて実感する素晴らしいお話でした。

木村先生はお話の中で何度も「今を楽しんで」ということをおっしゃっていました。「私なんか…」と言っていたら楽しむものも楽しめません。しっかりと自分を褒めて心から「今を楽しむ」ようにしていきたいと思います。

今回、このような素晴らしいご講演を伺う機会に恵まれましたことを感謝しますとともに、皆様の今後のお役に少しでも立てれば幸いです。

(文責/父母の会連合会副会長 塩見郁美)

県父母連委員総会報告

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の委員総会が6月16日にかながわうちえん会館会議室で開催され、令和4

年度常任委員が右記のとおりに出選されました。よろしくお願いたします。



令和4年度父母の会連合会常任委員名簿

役職	氏名	園名 (協会)
会長	寺尾 康子	みゆき幼稚園 (川崎)
副会長	大塚 秀子	横浜学院幼稚園 (横浜)
副会長	塩見 郁美	川崎めぐみ幼稚園 (川崎)
会計	近江 真依	平和幼稚園 (横浜)
会計	清水 華代	光ヶ丘幼稚園 (厚木)
委員	山本 淑子	認定こども園 峯岡幼稚園 (横浜)
委員	川島 理子	聖マリア幼稚園 (逗葉)
監事	伊堂寺ゆかり	藤沢芙蓉幼稚園 (藤沢)

教育相談事業

- 形態 教育相談に係る講演および幼稚園への出張相談、及び電話相談、面談。(面談による相談は「うちえん会館」にて行います。)
- 実施曜日 毎週 火曜日 10:00~12:00
毎週 木曜日 14:30~16:30
巡回相談及び講演(要相談)
- 相談費用 無料
- 相談申込 電話またはホームページから、神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申込みください。



TEL. 045-440-3210

ホームページ
<http://www.shinshiyou.com/education.html>